

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ…



2022年
8月3日
第135号

ゴシュユ (ミカン科)

園、通用口から管理棟に向かう角、バショウの横で円錐花序に淡緑白色の小花をたくさん付けている小高木が見られます。中国南部原産で江戸時代に薬木として小石川御薬園に導入されました。雌雄異株ですが、日本に持ち込まれたのは雌株で、株分けで全国に広まったので日本には雌株しかないと言われていました。秋には青い未熟果ができ、この未熟果を採取、天日で乾燥させると生薬の呉茱萸(ゴシュユ)となり、温裏薬として呉茱萸湯や温経湯などに配合されます。なお、果実の新しいものは嘔吐を催すことが多いので、乾燥後1年以上経過し古くなった小粒がよいとされ、辛味が強いものが良品とされます。味は最初辛く、後で苦味が残るため、特に呉茱萸湯は飲みにくい漢方薬の代表と言われます。また、葉にも鎮痛作用が期待され、浴湯料として用います。

ウチワサボテン (サボテン科)

園のどこにあるのかご存知ない方もいらっしゃると思います。管理棟の前、シチヘンゲの下にあります。花が咲いていることを期待したのですが、今年も見られませんでした。ウチワサボテンは属名で、その下分類にいくつか種があります。メキシコ原産で、アステカ人は聖なる植物として茎や果実を食用にし、現在もメキシコでは健康維持や肌の美容に良いとされています。中医学では、その下分類種となるセンニンサボテンの根から、仙人掌(センニンショウ)と呼ぶ生薬を調製し、行気活血、涼血止血を目的に使用しますが、その他のウチワサボテン属植物(中国語では仙人掌属)では、専ら果実を食用としています。鋭い棘を持ち、各地の生態系を壊していることから、世界の侵略的外来種ワースト100に登録されてるとは残念です。さて、日本の文学で「仙人掌」と出てきた時は、何と読むのでしょうか？